

2006年10月3日

宮城県知事 村 井 嘉 浩 殿

団体名：財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

(MELON) 緑・食部会

代表者：部会長 冬木 勝仁

住 所：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木 1-2-45

電 話：022-276-5118

宮城県食育推進計画（素案）に対する意見書

1. 「表題」について

県民がイメージしやすく、解りやすい名称にしてはどうか。また、副題やスローガンのものを加えてもいいのではないか。

2. 「計画策定の趣旨」について

食べ物と生産現場の隔たりに起因する問題点にも触れて欲しい。

“食べ残しなどにより食物が大量に廃棄されるなど・・・”という表現に関連し、食べ残しではない加工・流通・販売の過程におけるロスや意図的廃棄に関する点についても記述するべきではないか。

宮城県における食の課題や特色・特長・特性等について、概括的に触れてはどうか。

“食育を総合的かつ計画的に推進するための指針として・・・”という表現に関して、手引きや方針に留まらない具体的な取り組み、実践となる旨の表現にするべきではないか。

3. 「計画の位置づけ」について

食育基本法のための食育推進計画ではなく、県民のための計画という位置づけを明確にした上で、関連計画を説明して欲しい。

4. 「宮城県における食をめぐる現状」について

食に関連するデータがグラフにより解り易く紹介されているが、このことと併せて、数値の簡単な解説をしてはどうか。

課題に関しては、“食に関連する健康上の課題”が示されているが、このことに加え、食文化・伝統文化の喪失継承、食品の廃棄、食品の安全・安心、環境問題等の課題も記述し、ポイントを絞った上、現状と課題を対比してはどうか。

食の現状に関しては、“食そのもの”だけでなく、核家族の増加、女性の社会進出、高齢社会の到来など触れなければならない項目もあるのではないか。

“肥満や虫歯”の割合を“食に関連する健康上の課題”にあげているが、関連性を解説した上で、課題を提起するべきではないか。

“地産地消の取組み”には、単に食の安全・安心にとどまらない、地域情報の発信、ステーション機能、伝統文化の継承、環境対策等、幅広い意義と役割があることを記述してはどうか。

5. 「食育推進の視点」について

個人の“ライフステージ”に併せ、家庭、職域、学校、地域等に関する視点を付け加えてはどうか。

特に、食体験の少ない若い世代や教育現場の従事者に対する取組みや施策を、重点項目として取り上げるべきではないか。

6. 「食育推進の目標」について

定量目標値と併せ、ア、規則正しい食生活習慣を身につける。イ、自然の恵みやそれを育てあげた人々への感謝の心を持つ。ウ、食べ物の生産や流通に関心を持つ。等のチェックシートのような、簡便に達成レベルや成果がわかるような主観的目標表現もあっていいのではないか。

7. 「ライフステージに応じた食育の取組み」について

ステージ別の取組み内容が詳しく紹介されているが「基本は、家庭」という視点を強調してはどうか。

食育を実践する者の主体性が活かせる表現も、付け加えて欲しい。

8. 「食育の推進体制と関係者の役割」について

食育の主体は「家庭」であることから、はじめに「家庭」を記述の上し、「家庭」を基本とした推進態勢を整えるべきではないか。

推進体制と関係者の役割には“必要がある。努めるものとします。”等の文言が多く、具体的役割が、明確になっていない。

役割を設けることは大切だが、それぞれがバラバラでは有効性に欠けてしまう。連携部分の視点、具体的な内容を付け加えて欲しい。

9. その他

グラフや記述は、極力ポイントに絞込み、必要最小限のものとして欲しい。

既に、実践的に取組んでいる「先進事例等」を計画の中にアクセントとして、付け加えてはどうか。